

書名	シルクロード 仏の道をゆく			著者名	安部龍太郎／著			
出版社	潮出版社	ISBN	978-4-267-02255-5	本体価格	¥1,600	発売	2021/7/6	
内容	東アジア、特に中国の歴史を抜きにして、日本の歴史と文化は理解できないという問題意識を 30 年来持ち続けた直木賞作家がユーラシアの天地に立つ。仏教伝来の足跡を求めて、集大成となる小説構想を描いた延べ20日間にわたる取材紀行。							

書名	一生に一度は見たい日本の歴史的な建築100選			著者名				
出版社	宝島社	ISBN	978-4-299-01921-9	本体価格	¥900	発売	2021/7/7	
内容	世界最古の木造建築物と考えられている法隆寺の西院伽藍の金堂をはじめ、日本には古代から修築や改築を繰り返し、現代まで残っている歴史的建築物がいくつもあります。本誌は建築学より美術史、日本史に重点を置いて、「ぜったい見たい」社寺、城郭、近代建築など歴史的建築物100点を厳選して紹介。もともとの建物の姿と現在の姿との間にある変化や進化についても解説します。							

書名	聖徳太子 遺された七つの謎			著者名	千田稔／著			
出版社	青春出版社	ISBN	978-4-413-09781-9	本体価格	¥1,190	発売	2021/7/12	
内容	はたして聖徳太子とは如何なる人物だったのか！憲法十七条の冒頭「和を以て貴しとなし…」で古代日本のあり方を指し示した聖徳太子。仏教興隆の詔、遣隋使の派遣、冠位十二階の制定など、数々の事績は本当に彼の手によって成し遂げられたものなのか。遺された七つの謎を通して、聖徳太子の虚像と実像に迫ります。聖徳太子1400年遠忌。							

書名	たくましくて美しい 糞虫図鑑			著者名	中村圭一／著			
出版社	創元社	ISBN	978-4-422-43042-3	本体価格	¥1,700	発売	2021/7/16	
内容	日本には約160種類の糞虫が生息していますが、そのうち40種がいるといわれる奈良公園は「糞虫の聖地」と呼ばれ、神の使いである鹿が落としていく1日1トン (!)もの糞を聖なる糞虫たちがせっせと片付けています。幼い日、故郷の奈良で糞虫に出会って一目ぼれ、以来ずっと糞虫に夢中なフン虫王子こと「ならまち糞虫館」館長の中村圭一さんは、50代でついに脱サラして糞虫専門の博物館を建ててしまいました。本書は、そんな中村館長ならではの視点で読む人を糞虫の世界へと誘う、糞虫ガイドです。							

2021/6/23

2021年7月発売一覧

啓林堂書店外商部 担当:森川、表野
TEL0743-51-1000/FAX0743-53-5151

書名	邪馬台国をとらえなおす			著者名	大塚初重／著			
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-07165-9	本体価格	¥2,200	発売	2021/7/16	
内容	「魏志倭人伝」の記述を踏まえ、鉄器や土器、鏡など各地の発掘成果を集成し、日本列島の社会状況と纏向遺跡・箸墓古墳の位置づけを考察。モノと人の移動の痕跡から、多くの謎を秘めた邪馬台国の手がかりを掘り起こす。							

書名	伝承地でたどる ヤマトヒメの足跡			著者名	竹田 繁良／著			
出版社	人間社	ISBN	978-4-908627-73-6	本体価格	¥1,500	発売	2021/7/19	
内容	王(天皇)の神をなぜ、わざわざ遠い伊勢に移すのか？トヨスキイリ姫に跡を継ぐよう言われたというヤマトヒメ。彼女たちにそんな権限があったのか？奈良から伊勢に向かうには、本能寺から逃げた家康のように伊賀を越えれば近いのに、なぜ大回りして近江、美濃、尾張を回ったのか？ヤマトタケルに宝の剣(のちの三種の神器)を渡したというが、そんなことをしてよかったのか？ヤマトヒメの行動には疑問が多い。伝説の作り話だから、と片付ければ話は早い。しかし著者は、その存在を信じ、古代の姫の後を追う旅にた車や電車、バスで気軽にタイムトラベルが楽しめるガイド本です。							

書名	写真と歴史でたどる日本近代建築大観 第2巻			著者名	石田潤一郎・米山勇／監修 伊藤隆之／写真			
出版社	国書刊行会	ISBN	978-4-336-07087-6	本体価格	¥15,000	発売	2021/7/20	
内容	幕末から明治・大正・昭和前期に至る「近代」は、「欧米列強に追い付け、追い越せ」を合言葉に日本国民がたどった激動の時代であった。そうした中であって、建物は権威や富の象徴としての一面もあったが、そこに住んだ人々にとっては心の疲れを癒すつろぎの場であり、安らぎの場であった。本シリーズは、戦後75年を経た今でも各所に残る主な近代建築300棟を、建設当時の時代背景を交えながらカラー写真で紹介した書籍版「日本近代建築博物館」を目指したものである。幕末の開港以降、160年余の時空を超えて蘇る人々の「記憶」をじっくりと味わって頂きたい。							

書名	遺跡の発掘からみた飛鳥			著者名	明日香村教育委員会／編集			
出版社	雄山閣	ISBN	978-4-639-02739-3	本体価格	¥2,400	発売	2021/7/27	
内容	近年も、明日香村では重要な遺跡の発見・発掘調査が相次いでいる。牽牛子塚古墳・越塚御門古墳、都塚古墳の発掘は記憶に新しい。それら遺跡の発掘調査でどのような成果があったのか、その発掘がどのような意義をもつのか、そしてその成果が飛鳥の歴史をどのように塗り替えたのか。豊富な写真や図版で、臨場感ある発掘調査の様子を紹介し、遺跡の類例などほかの調査との関連、現在の研究動向をふまえながら、日本のまほろば・飛鳥を捉え直す。							